

五. 百人一首に詠まれた猪名の笹原

古くから河尻一帯、猪名川流域は風光明媚なところとして知られ、天皇、上皇、藤原氏などの貴族が、当地へ船遊びに来られ、多くの歌を残しています。特に、猪名川流域の待兼山は清少納言の「枕草子」の山の項にでており、和歌の歌枕に使われています。また、猪名の笹原は風光明媚なところとして知られ、百人一首の中で

有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする

と詠まれています。有馬山は六甲山のことだと思いますが、猪名川の下流域の笹原の墨絵的情景を詠んだものと考えられます。

猪名の笹原はどこか推理してみますと、六甲山の修景を考え、場所を探しますと猪名寺付近の河川敷ではないか思っております。